

◆ セミナー開催のお知らせ ◆

データ利活用の最新動向

～データアナリティクス、トラフィックデータ活用の可能性と注意点～

講師：中村 修 氏
慶應義塾大学 環境情報学部教授

2019年 11月 20日

ネットワーク上のデータ収集ガイドライン策定 WG/新規事業分科会

日時：2019年 12月 17日（火） 10:00-11:30

場所：CIAJ A～D会議室（新事務所）
東京都中央区日本橋兜町 21-7 兜町ユニ・スクエア 6 階
電話 03-5962-3450

演題：「データ利活用の最新動向」

講師：中村 修 氏
慶應義塾大学 環境情報学部 教授



■ 講演概要

デジタルトランスフォーメーション（DX）により社会や企業の活動が変わりつつある中、様々なデータを大量に集め、そのデータを分析して得られる知見を活用することがますます重要となっています。一方、大量のデータを組み合わせることで、収集時には意図されていなかった情報（例えばプライバシー情報）が抽出されてしまうようなリスクも顕在化しています。データは見方を変えることで新たな価値が生じる可能性があるため、その潜在的な価値の活用とリスク対応のバランスが重要となります。

本セミナーでは、データ利活用の最新の動向や事例を紹介するとともに、データ分析に絡む注意点について解説します。

また、ネットワークのトラフィックデータの分析結果を様々な用途に活用する可能性と、その際の注意点について、WIDE プロジェクトや Interop の NOC の経験を踏まえて解説します。

■ 講師紹介

1983年 慶應義塾大学工学部数理工学科卒業、1990年大学博士課程単位取得退学。博士（工学、慶應 1993）、1990年から東京大学大型計算機センター助手を経て1993年慶應義塾大学環境情報学部助手となり、現在慶應義塾大学環境情報学部教授。1987年からWIDEプロジェクトにてインターネットの研究開発に携わる。広帯域インターネットやIPv6の研究開発、普及に携わる。2009年からは、藤沢地域のWiMAXの運用会社、オープンワイヤレスプラットフォーム合同会社の技術協議会委員長となり無線インフラを含めたインターネット関連の研究開発もおこなう。2014年から4年間W3C/KEIO Site Managerとして、Web技術の標準化活動を推進する。2017年から慶應義塾インフォメーションテクノロジーセンター所長。

慶應義塾大学環境情報学部教授、慶應義塾 ITC 所長
WIDEプロジェクト ボード
ACM 会員、電気情報通信学会会員、ISOC 会員

以上

＜一般公開セミナー＞

12月16日までに web <<https://www.ciaj.or.jp/news/events/seminar/>>よりお申し込み下さい。定員になり次第、締め切りとなります。

また、ご提供いただきました個人情報は、CIAJ からの各種ご案内等に利用させていただく場合がございますので予めご了承下さい。